



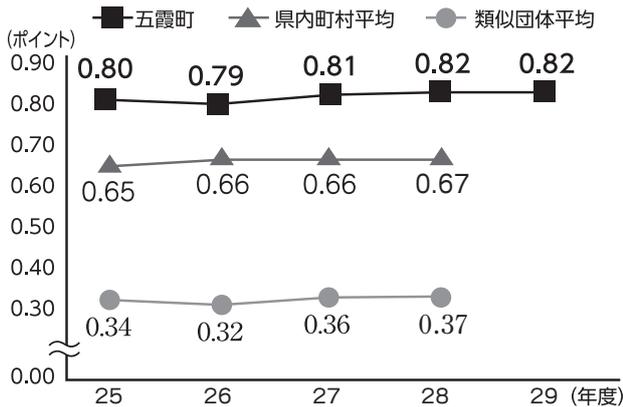
自治体の財政破綻を未然に防ぎ、財政状況が悪化した場合には、早期健全化を促すために財政判断指標を公表することが義務付けられています。

経常収支比率は年々上昇していますが、実質公債費比率、将来負担比率は低下し、財政健全化としては基準以下となっております。

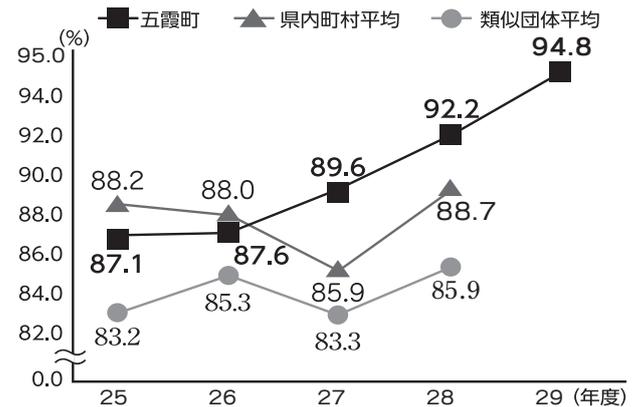
しかしながら、今後、さらに人口減少や社会保障費・公共施設等の更新費用等が増大していくことが中期財政見通しにおいて試算されており、2021年度以降は、極めて厳しい状況となります。

今後は、本町の財政の姿や運営課題を明らかにし、持続可能な財政運営を行うための指針となる中期財政見通しを更新しながら財政運営をしていきます。

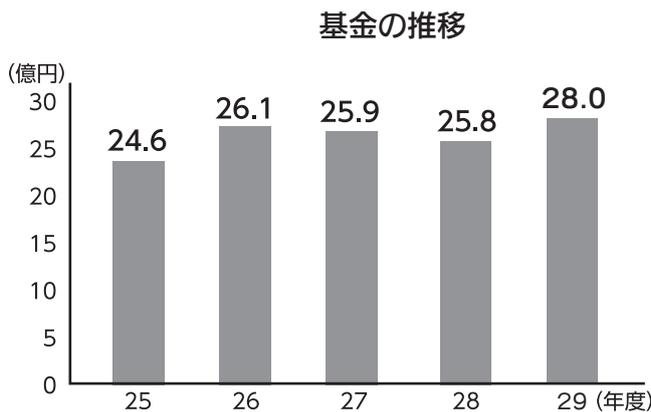
**財政力指数（3か年平均）**  
高いほど町が自力で調達できるお金が多い



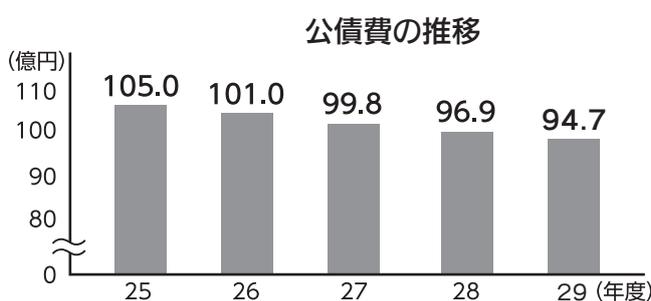
**経常収支比率**  
高いほど自由に使えるお金が少ない



指標	数値	前年度比	内容
実質赤字比率 (基準15.00)	赤字なし	—	一般会計を中心とした赤字の割合
連結実質赤字比率 (基準20.00)	赤字なし	—	一般会計のほか、特別会計や企業会計までを含めた全会計の赤字割合
実質公債費率 (基準25.0)	8.8%	△1.4%	年間の借金返済額の割合
将来負担比率 (基準350.0)	13.3%	△13.0%	将来に負担が見込まれる借金の割合



町の貯金（基金積立金）は、五霞IC周辺地区土地区画整理組合補助金等の財源として取り崩しましたが、公共施設等の維持管理や更新等に係る費用を確保するための財源として、新規に2億円を積み立て、総額は約28億円となります。



町の借金（地方債）は、町道5号線道路整備事業や地盤沈下対策事業など新たな借入れがありました。計画的な償還により、地方債は年々減少傾向にあります。

